

まんが記号の読みとりに熟達度が与える影響

村田 夏子

(お茶の水女子大学)

【目的】 まんがは独自の表現形式を持つため、読解にも独特の認知過程が必要であると思われる。ここでは「効果記号」としての背景の読みとりを調べることによって、熟達度がまんが読解に与える影響を検討する(注:本研究では日常まんがに接する程度の高いものを熟達者とした)。効果記号とは、登場人物と共にいわば舞台効果として描かれる絵を指す(例:効果記号として描かれた花は、花の実在を示すのではなく、比喩的に登場人物に「花を添える」ものである)。まんがの記号体系は固定的ではなく、効果記号も文脈によって多様な意味を持ちうる。文章読解の熟達の研究(Scardamalia & Bereiter, 1989, 1991)を参考にすると、まんが読解の熟達者も状況モデルとテキストベースを相互作用させ、テキストの一貫した理解に到達し、かつ領域知識を修正できると考えられる。また記号の解釈が曖昧では一貫した理解ができないため、読み始めの早い段階で豊かな状況モデルを作るであろう。一方、非熟達者は状況モデルと矛盾する情報は見落とす傾向がある。従って作品冒頭の設定部分を読んだ時点で両者に差がみられると思われる。そこで次のような実験を計画した。冒頭を読ませた後ある登場人物の絵を見せ、どのような人物であるか想像させる。次に同じ絵に背景効果記号を加えたコマを見せ、背景情報をどのように統合させるかを調べる。その際原作と同じ背景の他、状況モデルと矛盾する背景と差し替えたコマを用意し、解釈を比較検討する。

【方法】 <実験計画> 2(熟達度:高・低)×4(背景の種類:原作通り・原作と異なる3種)の2要因計画。
<被験者> 日常まんがに接する程度に関して短大生女子156名に予備調査を実施し、上位25%の43名を熟達者群、下位25%の45名を非熟達者群とした。
<材料> 『ロマンスの王国』(1991, 雑誌)の冒頭24ページをテキストとした。ある脇役のコマを効果記号の解釈を調べるため用い、登場人物と背景の組合せを4種類用意した(原作通りの花綱, 印象の異なる人物に描かれたカトレア, 緊迫感を与えるベタフラッシュに椰子を配したもの, ギャグ場面に用いられた結び模様)。
<手続き> テキストを読ませた後、上記の脇役の絵(背景なし)を見せ、想像したことを外見・性格・属性の項目で記述させた。また続きを読みたいかどうかと、絵柄から受けた印象を書かせた。次に背景のついた絵

を見せて背景が登場人物にふさわしいかを評定させ、背景がどのような意味を持つと思うかを書かせた。

【結果と考察】 1) 登場人物像に挙げられた項目の総数に有意差がみられ、熟達者の方が多かったことより、熟達者の想像の方が詳しいことが示唆された。内訳では外見に有意差があった。外見は絵で与えられているはずであるが、熟達者はテキストの情報を有効に利用し、状況モデルとの相互作用によってさらに想像を補うと考えられる。

2) 絵柄の印象は、熟達者の方が有意に多くの項目を挙げて詳述していた。1の結果と共に、熟達者は材料からより多くの情報を読みとって状況モデルを作るのに利用できることを示していると思われる。

3) 続きを読みたい理由を、熟達者は内容に言及して詳述するのに対し、非熟達者は単に中途半端だったからとするものが多かった。すなわち熟達者は正確なテキストベースを元に作風の好みや展開の予測から続きを読むか決めるのに対し、非熟達者は作品を個別化するような情報を見落としている可能性が示唆された。

4) 背景のふさわしさの評定値は、熟達者の方が有意に低く、厳しく評定しているようであった。また背景の種類の主効果も有意であった(対間比較における有意差:花綱>結び模様, カトレア>結び模様)。

5) 背景の意味については解釈度によって次のように得点化した。「わからない」=0点。直接的な解釈(例:「花のようなイメージ(花綱)」)=1点。メタファー・強調などの役割を持つと指摘したもの(例:「主人公を引き立てる役割(カトレア)」)=2点。これらの役割が機能した結果喚起された内容の具体的な記述(例:「心とは裏腹に明るく主人公の結婚を祝福しようとする彼女の気持ち(カトレア)」)=3点。この得点については熟達度の主効果が有意であり、熟達者の解釈の方が深かった。また交互作用も有意であったことから、熟達者の解釈度は背景によって異なり、背景が一貫性を欠く場合に深くなることが明らかになった。さらに熟達者には原作以外の背景を屈折や二重性の表現として捉える解釈がみられたことより、熟達者の背景解釈は柔軟であり、背景がふさわしいときには浅く、違和感があるときには何らかの意味的不一致を示す新たな情報として再解釈することが示唆された。